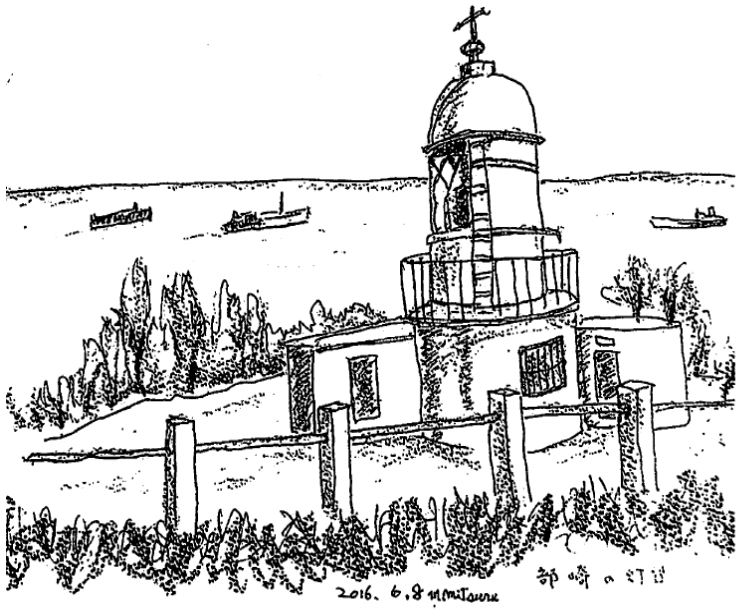
週報２０２０年６月２８日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙３章１５節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎　http://jesus.holy.jp/
〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10
TEL 093-381-4395(FAX…4396)
牧師携帯　090-6737-5276

礼拝順序　2020 年 6 月 28（日）

前奏	力丸勝子 師
開会の祈り	山﨑銀次郎 牧師
信仰告白	使徒信条
	標語聖句唱和「コロサイ書 3 章 15 節」
讃美	新聖歌 1「いざ皆きたりて」1・4 節
献身の祈り	山﨑銀次郎 牧師
賛美	新聖歌 343「罪に満てる世界」1・4 節
聖書朗読	創世記 12 章 10～20 節
説教題	「神の恩寵」
お祈り	御言葉の応答の祈り
祝福と派遣の祈り	山﨑銀次郎 牧師
後奏	力丸勝子 師

交わりの三省

＊互いに愛し合っていますか
＊互いに赦し合っていますか
＊互いに祈りあってますか

説教要約

創世記12章 10～20 節

「神の恩寵」

I．導入

創世記 12 章 10 節でアブラハム（この当時はアブラム）は飢饉が起こったカナンの地を離れ、豊かな作物を生み出すエジプトへ一時避難します。この判断は一見、当然の事のように見えます。しかし **12 章の冒頭**で神はアブラハムを祝福し、生まれ育った地から離れ、指し示す地（カナン）へ行くように命じています。そしてアブラハムはこの言葉に従います。一方、10 節は神の指示は無く、自分の決断でカナンの地から離れていく事がわかります。これが**創世記の始め**から語られている、人間が持つ罪の性質です。そしてエジプトの地でもアブラハムは同じ過ちを繰り返します。つまり神の約束を見失い、自己保身の為、サラ（イ）を自分の妹と偽ります。

そこで神様はパロとその家に災害を与えます。興味深い事に、この場面で限定して言えば、神を畏れ、罪から離れる姿勢を示しているのはアブラハムではなくパロです。そこで今日の聖書箇所が教えている事は神の懲罰ではなく、神の恩恵です。神が願う事は人類の滅びではありません。創造主の永遠の愛によって、人々が再び主に立ち帰ることです。**これこそ聖書の初めに収められている創世記のテーマであり、聖書全体を貫くテーマです。**神は神の命令に従って来たアブラハムの罪を赦し、所有していた家畜も失わせることなく、又元の約束の地カナンへ送り出したのです。これは神の一方的な恵みによるものです。

この後、ロトとアブラハムは対立します（正確には彼らの牧者達がお互いの所有物を巡って）この後、甥のロトが取る行動は以前のアブラハムと同じ行動を取ります。他者への配慮を欠き、自らの目だけを頼りにして、自己中心的な行動を取ります。しかしアブラハムは平和に物事が進むように謙虚さを示し、ロトの罪が赦されるように必死で執り成しの祈りをします。そのような信仰を示す事が出来たのは、神の一方的な愛と恵を知ったからです。そのような祝福の基、アブラハムの信仰によってロトは救い出されました。このように、神の恵みは神の恵みを知った人達によって繋げられて来たのです。

II.証（本論）

私が幼少期の頃、父に対して持っていたイメージは「怖い」でした。父は大工の仕事が忙しく、休日ほとんど寝てばかりでした。ある時、父の愛車にボールをぶつけた事がありました。その時鬼のような形相で怒られ、半べそをかきました。なので幼少期、父に対して「私に無関心で、自分より車が大切だ」と思っていました。

そういった印象を大人になっても、どこか心の片隅に抱いていた私ですが、ある出来事がその印象を 180 度変えました。フィリピンでの留学中、ある時母から電話があり、父が私に関して言っていた事を教えてくれました。その内容は「わし（父）は田舎の鹿児島から仕事の為に大阪に出て来たとき、お金も物も無くて本当に苦労した。」「だから今の銀次郎の気持ちがわかる。出来るだけ仕送りして応援してあげたい。」私はそれを聞いた時、電話越しに号泣しました。張りつめていた緊張とか、積もっていた留学生活の不満とか、将来の不安が全て溶けて行き、心の中が愛情で満たされている事がわかりました。

その出来事は同時に父に対して抱いていた悪いイメージが砕かれる瞬間でもありました。父は確かに言葉で愛情表現するタイプではありません。しかし、いつも自分が出来る事を精一杯形にして愛情を注いでくれていました。私は積み重なった不平や不満が邪魔をして本来の父の姿を見失っていたのです。

III.結論

アダムとイブが神の命令に反して園の中央の木の実を食べて以来、人間は自らの手で知識を追い求め、神に成り代わろうと行動するようになりました。しかしその先に救いはありません。事実、アブラハムが向かって行った先は一時的な助けを得る事が出来ても、永遠の救いを得る事は本来、出来ませんでした。罪の支払う報酬は死だからです。

私達の人生は度々「欠乏」に悩まされます。能力や才能、経済、知識、信仰、等です。それらを補おうと様々な努力をしますが、とどの詰まるところ、更なる焦りを生み出し、上手くいかない怒りが生まれ、そして強引な判断をした結果、争いや分裂を生じさせます。しかし私達の心に表わされている神の恵みはいつも変わることなく、一杯に注がれています。私達は人知を超えた神の恵みによって救いを得ました。これがイエスキリストによる救いです。この神の恵みによって私達は何度でも罪が赦され、主に立ち返る事が出来るのです。

いつまでも変わらないもの、それが「神の恩寵」です。私達に与えられたこの素晴らしい恵みを日々求めてまいりましょう。この恵みが再び信仰を立ち上がらせる力の源です。この恵みだけが主の道に沿って歩み続ける力になります。そして人を愛し、赦し、祈る力の源になります。こうして神の恵みは人から人へ流れていくのです。共に主を見上げ前進してまいりましょう。

新聖歌 1「いざ皆きたりて」

1. いざ皆きたりて　喜ばしく
声を一つにし　ほめたたえよ
※小羊イエスに　御栄えあれや
ハレルヤ！　ハレルヤ！　ハレルヤ！　アーメン！

2. われらに代わりて　死に給いし
神の小羊に　栄えあれや　※

3. イエスこそ　すべての力と知恵
富と尊きを　受くべきなれ　※

4. 神に造られしもの　すべては
声を一つにし　ほめたたえぬ　※

新聖歌 343「罪に満てる世界」

1. 罪に満てる世界　そこに住む世人に
「生命　得よ」とイエスは　血潮　流しませり
※ああ恵み！　計り知れぬ恵み
ああ恵み！　われにさえ及べり

2. 罪は海の如く　わが心　覆えど
神はさらに強き　恵みもて救えり　※

3.「誰ぞわれの罪を　ことごとく洗うは」
「見よ血潮は汝を　雪よりも白くせん」　※

4. 妙に奇しき愛を　限りなき恵みを
今ぞ誰も受けよ　ためらわずそのまま　※

創世記 12 章 10～20 節　「神の恩寵」

【新改訳改訂第 3 版】
創世記
12:10 さて、この地にはききんがあったので、アブラムはエジプトのほうにしばらく滞在するために、下って行った。この地のききんは激しかったからである。
12:11 彼はエジプトに近づき、そこに入ろうとするとき、妻のサライに言った。「聞いておくれ。あなたが見目麗しい女だということを私は知っている。
12:12 エジプト人は、あなたを見るようになると、この女は彼の妻だと言って、私を殺すが、あなたは生かしておくだろう。
12:13 どうか、私の妹だと言ってくれ。そうすれば、あなたのおかげで私にも良くしてくれ、あなたのおかげで私は生きのびるだろう。」
12:14 アブラムがエジプトに入って行くと、エジプト人は、その女が非常に美しいのを見た。
12:15 パロの高官たちが彼女を見て、パロに彼女を推賞したので、彼女はパロの宮廷に召し入れられた。
12:16 パロは彼女のために、アブラムによくしてやり、それでアブラムは羊の群れ、牛の群れ、ろば、それに男女の奴隷、雌ろば、らくだを所有するようになった。
12:17 しかし、【主】はアブラムの妻サライのことで、パロと、その家をひどい災害で痛めつけた。
12:18 そこでパロはアブラムを呼び寄せて言った。「あなたは私にいったい何ということをしたのか。なぜ彼女があなたの妻であることを、告げなかったのか。
12:19 なぜ彼女があなたの妹だと言ったのか。だから、私は彼女を私の妻として召し入れていた。しかし、さあ今、あなたの妻を連れて行きなさい。」
12:20 パロはアブラムについて部下に命じた。彼らは彼を、彼の妻と、彼のすべての所有物とともに送り出した。